

令和3年度 徳島県教育会研究主題

研究主題

「変化する社会の中で、心豊かにたくましく生き抜く『人財』を育む教育活動」

— 未来へつなぐ教育環境を創造し、一人一人が輝く教育活動の推進 —

主題設定の趣旨

現代社会は、グローバル化と AI や IoT による技術革新が急速に進んでいる。国内では急激な少子高齢化と生産年齢人口の減少による社会全体の活力低下が懸念されている。このような変化が激しく将来の予測が難しい「超スマート社会」の到来と持続可能な開発目標である「SDGs」の達成が期待される世の中を、子供たちはたくましく生き抜いていかねばならない。

折りしも、2020 年、新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、世界中が大きな混乱と不安に陥った。そして人類は、まだ先行きの見えない未知の状況の中で模索を続けている。

日本では、東京オリンピック・パラリンピックの開催が延期され、全国の学校が一斉臨時休業となった。約3か月近くに及んだ臨休を経て再開された学校においては、徹底した感染予防対策の上での限られた教育活動を余儀なくされた。この非常事態の中で、子供たちにどのように学びを保障し、どのような子供を育てていくのか、そのためにどのような教育活動を実践すべきか、多くの課題が私たち教職員に突き付けられたのである。

幼稚園等では令和元年度より新幼稚園教育要領等が全面実施となった。小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から新学習指導要領の全面実施がスタートしている。高等学校でも、令和4年度からの年次進行での実施に向けて準備が進んでいる。今回の新学習指導要領では、子供たちに必要な資質能力として、「生きて働く『知識・技能』の習得」「未知の状況にも対応できる『思考力・判断力・表現力等』の育成」「学びを人生や社会に生かそうとする『学びに向かう力・人間性』の涵養」を挙げている。まさに予測困難な社会を生きていく子供たちが獲得すべき資質能力である。

本県では、「未知の世界に果敢に挑戦する、夢と志あふれる『人財』の育成」を基本方針とした、令和元年度から令和4年度までを推進期間とする「徳島教育大綱」を策定し、教育、学術、文化及びスポーツの振興に関する総合的な施策について、その目標や根本となる方針を定めた。すでに平成30年度からの5年間にわたる本県教育の新たな行動計画として、「徳島県教育振興計画（第3期）」を策定し、「徳島ならではの」施策や、成果指標等が総合的かつ体系的に示されている。

私たち教職員は、新しい時代に対応した教育の流れを念頭に置き、学校教育の重要性を再認識するとともに、個々の資質・職能の向上に努め、学校力を強化し、未来の創り手となるために必要な資質・能力を子供たちに育むことのできる教育に取り組まなければならない。そして、子供たちが、夢を抱き、自らの行動によって未来を切り拓いていくための「生きる力」を身につける場と機会、つまり「未来へつなぐ教育環境」を創出することが大切である。

子供たち一人一人が、個性・能力を生かし、他者と協働しながら、心豊かにたくましく生き抜くための力を育む教育活動が、すべての学校園で行われることを願って、本主題を設定した。